



基本目標

安心・快適なるおいのある家庭づくり (その2)

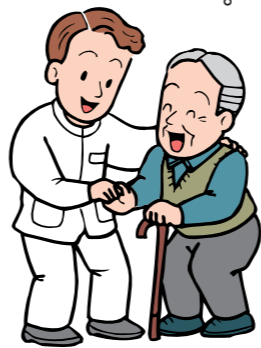
最近では、男女協力して子育てを行う傾向にあります。特に女性は、家事や育児、介護などが負担となっており、就業・社会活動に参加しにくい場合があるようです。男女が積極的に子育てや介護に関わり、責任をともに担って、能力や意欲を發揮しながら社会参画できるような環境づくりを推進していきます。

●子育て支援体制づくりの充実

様々な保育サービスの提供など男女の子育て支援充実を図ります。
さつま町役場 ☎11111
特別保育事業等の実施・子育てに関する相談事業 福祉課 (内線2132)
母子健康手帳交付(原則第2第4の月曜日 宮之城保健センター)時の
健康相談や妊産婦健康診査 健康増進課(内線2143)

●介護支援体制の充実

高齢者・障害者等の介護にあたる家族の支援の充実を図ります。
障害者福祉サービス さつま町役場 ☎11111
高年齢者の介護や福祉、保健に関する相談 福祉課(内線2134)
さつま町地域包括支援センター (すこやか長寿課内) ☎4690



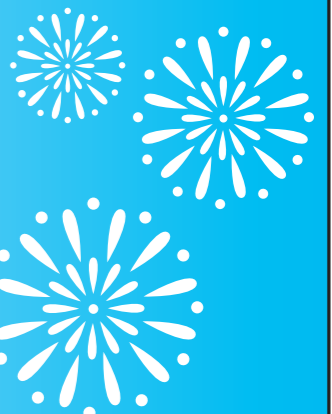
広告

第1回 神子区夏祭り

■期 日 8月12日(火) 19:00開始(雨天の場合は13日)
■場 所 さつま町健康ふれあいセンター あび～る館
■催し物 花火大会、保育園児の楽しい踊り
スイカ割り、五ツ太鼓、盆踊り、他

■屋台夜店 鶏・豚炭火焼、焼そば、フランクフルト
かき氷、生ビール、他
■主催 神子区公民館
■協賛 さつま町健康ふれあいセンター あび～る館
■お問合せ (夏祭り事務局) : あび～る館 ☎31-5015

遊びにきてね



がんばれ 認定農業者!! シリーズ⑳

さつま町中津川

中村 重人 さん



中村さんは、水稲3.5ha、梅80a、生産牛17頭の複合経営をされています。

梅の栽培については、15年程前、旧薩摩町で養蚕畑の跡地に栽培できる良い作物はないかと梅が推進され、始められました。第1回目の和歌山県への先進地研修では、初めて見た手で握られないほどの大きな梅の実と、生産者がまだまだ栽培したいのだが、土地がないという話に驚かれたそうです。

推進当時、梅の栽培に取り組んだことで、集落の農道も改良していただき、花見の時期は、町外から花見客も訪れるようになったそうです。また、生産者同士で、集落の山の間伐を行うなど、団結力も生まれ、梅を通じて多くのことを得ることができたそうです。

中村さんは「最近では、焼酎会社や黒酢会社、菓子会社からも関心を持っていただき、また、新聞などで、さつまの梅が広く紹介され、生産者も元気が出てきて、うれしいです」と話されました。

集落営農組織等の動き



船木東農作業受託組合による田植え作業

集落営農組織等の設立状況については、6月号でお知らせしましたが、6月10日、船木東地区において「船木東農作業受託組合」の設立総会が開催され、早速、田植えの受託作業が実施されました。

この地区は、3月23日に農地の利用調整を図る組織として「船木東地区農用地利用改善組合」が設立されたばかりですが、中山間地域等直接支払制度

の集落協定の中でも営農組織の育成を選択していることもあり、「田植えから実績を出していきたい」と、話し合いが熱心に重ねられてきました。なお、7月20日、佐志区のおながわ集落では「おながわ地区農用地利用改善組合」の設立総会が開催され、12番目となる農用地利用調整組織が誕生しました。



おながわ地区農用地利用改善組合設立総会